

- 地域内にて観光に係る各業務に関する役割分担を「見える化」することにより、役割のモレやダブリを把握
- 気仙沼市の観光地経営の体制を一つの会社に見立て、役割分担を明確にすることでモレやダブリをなくし、組織図のような形に整理することで体制を構築

取組事例

■（一社）気仙沼地域戦略（地域DMO）

【マネジメントエリア：宮城県気仙沼市】

- 2011年東日本大震災からの復興に向け、観光を水産業と並ぶ主要産業とする方針をたて、観光に対して大きく舵を切る
- こうした流れの中、観光地経営の体制づくりを行うにあたり、行政・観光協会・各種関係団体がこれまで果たしている役割の「見える化」を実施
- その結果、どの主体も果たしていない役割(＝モレ)や複数の主体が果たしている役割(＝ダブリ)が存在することが判明

業務	各関係団体			
	市行政	観光協会	リアSP.F	商工会議所
誘客営業	○	○		
受入	○	○		
商品開発		△	ダブリ	○
情報発信	○	○	○	○
イベント対応	○	○	○	○
施設整備	○			
観光戦略設計、マーケティング			モレ	

→戦略策定やマーケティング機能を担う新たな組織「気仙沼地域戦略」の設立

▲観光地関係団体の役割の「見える化」

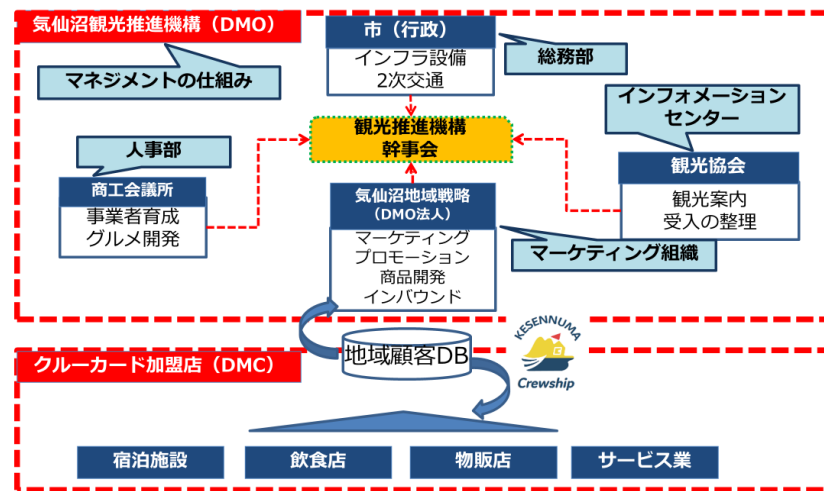
- 気仙沼市の観光地経営の体制を一つの会社に見立て、役割分担を明確にすることでモレやダブリをなくし、組織図のような形に整理することで体制を構築

＜関係者の役割を組織図のような形に整理＞

- 市（行政）：総務部（基盤整備）
- 観光協会：インフォメーションセンター
- 商工会議所：人事部（人材育成）
- 気仙沼地域戦略：経営企画部、マーケティング部、商品開発部

気仙沼版DMOの仕組み

市民が連携して役割分担することで、地域経営の仕組みを構築



▲地域全体を一つの会社に見立てた体制図